

那珂川町図書館

オススメの1冊

『語りつぎたい裂田溝』 裂田溝編集委員会／編

那珂川市「歴史を学ぶ会」／出版 郷土資料【219.1 ナカ】

古くは『日本書紀』に登場し、1600年以上たった今でも水路として利用されている裂田溝。神功皇后が神田（神に貢ぐための水田）を作るために水路を掘りましたが、迹驚岡（安徳台）に大岩があり作業が難航しました。そこで神功皇后が武内宿禰に水路が通るよう祈らせると、急に雷が鳴り、その岩を裂いて水が通るようになったことが名前の由来になったといわれています。

この本では、那珂川だけでなく中国から伝来した稲作の歴史や水の流れ、井堰の仕組み等を写真や伝承とともに紹介しています。また、水路の周辺で発見された遺跡や伝統的な祭など、様々な面から裂田溝とその周辺との関わりについても書かれています。

平成18年には日本の農林水産省が定める“疎水百選”に選ばれた美しい水路でもあると同時に、夏は涼しいせせらぎが耳を癒し、冬（毎年11月頃）にはライトアップもされ、近隣の人々にも親しまれている裂田溝。この機会に、那珂川の歴史にふれてみませんか。

参考資料：『日本書紀（二）』岩波書店

那珂川市図書館司書（金糸猴）

『あるかしら書店』 ヨシタケ シンスケ／著 ポプラ社 【726.6 ヨシ】

様々な図書館があるように、世界にも様々な書店があります。残念ながら、那珂川に以前あった書店は現在ありませんが、近隣にはいくつかの書店があります。書店により、本の並べ方や展示方法も様々でその書店それぞれに魅力があります。

とある町のはずれの一角に、本にまつわる本の専門店〈あるかしら書店〉があります。さて、今日もいろんな理由でお客さんが本を求めてやってきます。ここの〈あるかしら書店〉どのような本があるのでしょうか。例えば、“世界のしかけ絵本”では、とび出す絵本やかけ出す絵本、ほめ出す絵本などが〈あるかしら書店〉にはあるようです。とび出す絵本は、私も見たことはありますが、読んでいる絵本がもし突然かけ出してしまう絵本だったら……。読んでいる最中に困ってしまいますね。他にも、明るい満月の夜月明かりの下だけでしか読めない“月光本”。普通の電灯の下では真っ白で字が読めない本であるため、読み終わるまでにどのくらいの期間かかってしまうのだろーと思ってしまうました。

私がこの〈あるかしら書店〉で、一度行ってみたいと思ったのが“水中図書館”です。さてこの“水中図書館”とは一体どのような図書館でしょう。気になった方はぜひ読まれてみて下さい。大人向けの本ですが、子供さんでも読みやすく書かれていますよ。

那珂川市図書館司書（紅娘）